

<講師と聞き手による討論内容>

<コンテナ苗について>

- ◆北海道にあったコンテナ苗の開発・普及で新しい「低コスト林業」を確立する。
- ◆日本林業の最大のウィークポイントは、再造林費を含めた育林コストの高さ。トータルコストをどう下げるかという視点でコンテナ苗を導入し、伐ったら直ぐに植える「一貫作業システム」の普及を図る。
- ◆コンテナ苗は、根がしっかり張り、根鉢が崩れない状態で成型性を保持したものが求められる。
- ◆コンテナ苗は菌が少ないことも有り、養苗が難しいとされた、エゾマツをコンテナ苗に使用することで増殖の可能性は高まる。

<コスト削減と省力造林について>

森林技術・支援センターの試験地からカラマツコンテナ苗は、平均苗高130cmを超えている（平均植生高130cm）ので、来年、植栽後3年で下刈りを上げることは可能である。

カラマツコンテナ苗の下刈り回数の見直しとコスト削減については、従来の下刈り回数5年で7回を2～3回に出来ないか当センターで検討していることなどが報告された。（表-1参照）

また、下刈り回数について固定概念に捕らわれず、必要があるものは見直す方向で進むことが賢明と思われる。など提言もなされた。

表-1 下刈り回数の対比

裸苗（人力地拵）→ 5年	1年目	1回刈り
	2年目	2回刈り
	3年目	2回刈り
	4年目	1回刈り
	5年目	1回刈り
	計	7回
カラマツコンテナ苗（人力地拵）→ 4年 ※裸苗に比べコンテナ苗は、1年早く成長している	1年目	下刈りを省略
	2年目	下刈りを省略（判断）
	3年目	1回刈り＋残し幅被りとり
	4年目	1回刈り（判断）
	計	2～3回
バックホウ（大型地拵）→ 4年 ※人力地拵より下刈り開始年をさらに1年先へ延ばすことは可能と思われる。	1年目	下刈りを省略
	2年目	下刈りを省略
	3年目	下刈りを省略（判断）
	4年目	1回刈り＋残し幅被りとり
	計	1～2回

下刈り回数の見直し（人力地拵）

- 植栽後、2年目、カラマツコンテナ苗高72cm、笹高は40cmという当センターの試験地

データがある。苗高は、再生する笹の高さを上回っていることから今後、追いつかれることはない。(表-2参照)

●林床の植生より、残幅の被りの被圧を問題視しているので被り取りを確実に行う。

表-2 林床で再生するバックホウと人力地拵地の笹高比較

人力地拵	地拵え後1~2年で苗高程度まで笹が成長
バックホウ (大型地拵)	5年経過しても苗高の半分程度